

これからどのように寺院と関わっていくか

3年5組30番 藤井 愛香

1. はじめに

筆者の探究したテーマは、これからどのように寺院と関わっていくかである。なぜこのテーマに取り組もうと思ったのかという点、筆者は小さい頃から、奈良県のお寺に行ってお寺の写真を撮ることが好きで、常にお寺を身近に感じていた。そこで、皆、何のために寺院を訪問するのが気になり、それを踏まえて、私達と寺院との関係はこれからどうなっていくかを考えないといけないのではないかと考えたからである。

2. 序論

住職のいないお寺のことを空き寺と言うのだが、その住職のいない空き寺を無くすためにはどうしたらよいのかという問いを筆者は立てた。それに対する仮説は次の2つである。

1つ目は、僧侶や住職を増やしていき、お寺を守っていくというものである。

2つ目は、今あるお寺や空き寺になりかけているお寺で何かしらのイベント活動を行うというものである。

現在約77,000のお寺が全国にあるのだが、そのうち、約20,000のお寺が住職のいない空き寺となってしまう。この状態のままでは、数年後には、現在の半分になってしまうと考えられている。(※1)

先行研究として、筆者は「寺院消滅」という鶴飼秀徳さんの本を参考にさせていただいた。鶴飼秀徳さんは「日経ビジネス」の記者であり、京都にある正覚寺というお寺で副住職もされている。

筆者が立てた2つの仮説に対して、僧侶や住職を増やすこと、お寺でイベント活動を行う以外に空き寺をなくす方法はないのだろうか。また、現在、少子高齢化の進行が非常に進んでいるが、果たして本当に新たに檀家を獲得することはできるのだろうかという批判的検討があると考えた。

約20,000のお寺が住職のいない空き寺となっているが、この空き寺を無くすためにはどうしたら良いのか。また、僧侶や住職を増やして、今あるお寺や空き寺になりかけているお寺を守っていくのが目的であるために、私達はどのように行動をしていけば良いのか。お寺を維持していく上で大切になってくるのは、後継者がいるのかいないのかだと筆者は考えた。

研究方法としては、主にインターネットを使い、現状、空き寺ではどのような問題があるのかを調べる。現住職さんが書いた本を読む。資料に書いてあるアンケート結果をまとめるなどである。

3. 本論

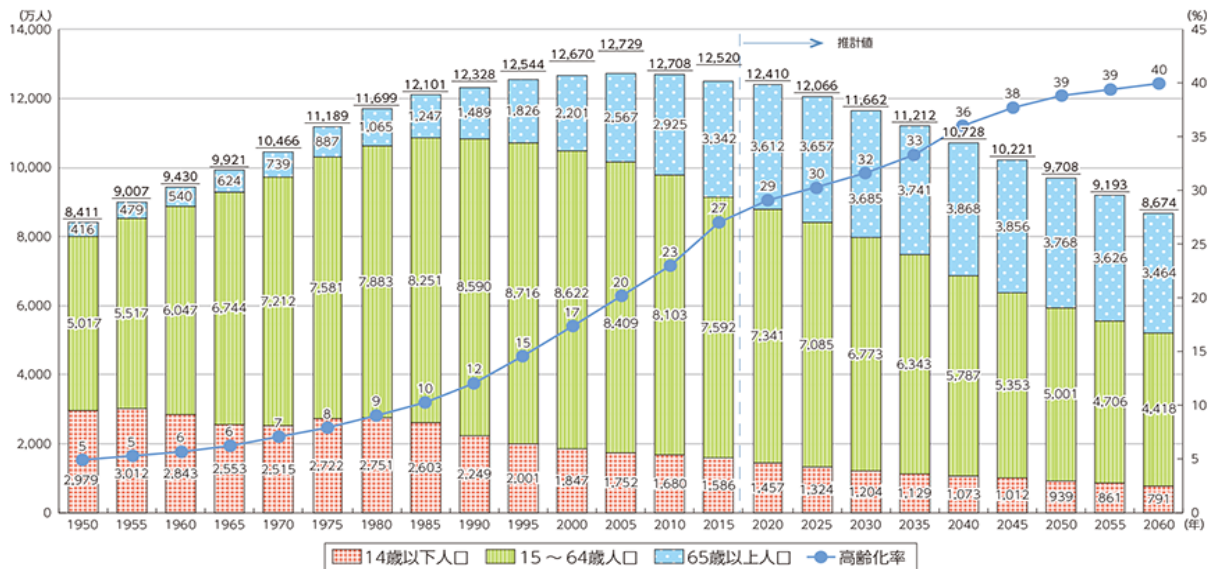
約77,000のお寺が全国にあると述べたが、この数は、学校よりもコンビニよりも多いとされている。文部科学省の平成30年度学校基本調査(※2※3)によると、全国の小学校の数は1万9892校、中学校は1万270校、高等学校は4867校、大学は782校。そのほか、幼稚園や専修学校などもろもろ合わせて5万5654校である。よって、学校よりもお寺の数の方が多いことが分かる。

先行研究として読んだ「寺院消滅」には、次のようなものが書かれていた。(※4)

「島根県に正念寺というお寺があります。このお寺には住職さんがいなく、村の集会場として使われています。文化財としての価値も見いだせないこのお寺は、このままではいずれ廃寺になる運命にあります。隣村のお寺さんに合併してもらおう話もありますが、手続きには時間と手間がもちろんかかります。このようなこともあり、今全国的に空き寺問題がどんどん深刻化しています。お寺は一般住宅に比べて規模が大きく、解体費用には数百万から数千万円単位の費

用が必要になってきます。しかし、住職がいらないお寺を放置すれば、崩壊や不審火等による不測の事態も想定されます。もう仏像を盗まれたという被害が福島県の空き寺で発生してしまいました。仏像を盗まれた被害の多くは、海外に持ち出されて転売されたり、オークションにかけられて、高額で売られてしまいます。」

これを読んで、筆者は、なぜ住職さんがいなくなってしまうのかを考えた。そしてその原因は、人口の減少にあるのではないかと考えた。総務省の平成28年版人口減少社会の到来(※5)によると、2020年では1億2410万人だったが、40年後の2060年では、8674万人になるとこのグラフから分かる。(下記の図参照)ここから、現在、少子高齢化の進行が非常に進んでいることが分かる。



後継者となるのは、今の若者達であって、その若者達が働きに上京してしまうと、新たな檀家の獲得が困難になってしまうと考えられる。檀家がいなくなるということは、お寺の収入源が無くなってしまふということなのだ。

人口が減少している中、僧侶になりたい人を増やしていけるのかが課題となってくる。筆者はその課題について、2つのことを考えた。

1つ目は、お寺の数と我が国の信者数が関係しているため、僧侶になりたい人が増えるのではないかと考えた。文化庁宗務課の宗教年鑑を参考に筆者がまとめ、整理したものとによると、令和2年版では、大阪府はお寺の数が全国で2位である。平成7年版では、我が国の信者

数は2位であるが、令和2年版では、我が国の信者数は4位である。(下記の図参照)

お寺の数(2020,11,14、2021,07,24)

1位	愛知県(4,842)	2位	大阪府(3,444)
3位	兵庫県(3,333)	4位	滋賀県(3,127)
5位	京都府(3,108)	16位	奈良県(1,819)

<https://media.horinji.or.jp/ranking-prefecture/>

我が国の信者数(平成7年度)

総数	219,838,678人	仏教系	89,828,502人
1位	東京都 (23,612,731人)	2位	大阪府 (4,712,504人)
3位	兵庫県 (4,292,541人)	4位	愛知県 (3,492,377人)
5位	神奈川県 (3,449,390人)	6位	福岡県 (3,089,720人)
		8位	北海道 (2,396,363人)

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenjihokokusho/shukyo_nenkan/index.html

我が国の信者数(令和2年度)

総数	183,107,772人	仏教系	84,835,110人
1位	東京都 (36,228,464人)	2位	兵庫県 (2,983,005人)
3位	愛知県 (2,583,500人)	4位	大阪府 (2,500,558人)
5位	福岡県 (2,368,082人)	6位	北海道 (2,165,740人)
7位	神奈川県 (1,935,534人)		

https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/hakusho_nenjihokokusho/shukyo_nenkan/index.html

このような都道府県では、仏教に興味を持ってくれる人々が多いのではないかと考えた。お寺の数と我が国の信者数が多い都道府県から、僧侶又は住職になりたい人を見つけたり、勧めたりするなどということをしたら、住職さんが減るということがなくなるため、空き寺もなくなると思う。そうすると、その都道府県のお寺の数が減少するということもなくなり、全国のお寺も減少するということもなくなるのではないかと考えた。そこで、興味を持ってきている人がいて、僧侶又は住職になってくれるのが一番理想的だ。

2つ目は、日本消費者協会の2008年の第8回「葬儀についてのアンケート調査」に(※6)よると、寺院で参加してみたい行事で、お坊さんの説法や座禅が上位にきているが、やはりどれにも参加したくないと答えた人が、20%近くいることが分かる。では、どのような活動を行ったら参加してくれるのか。お寺はどのような活動をすべきかというのでは、死者・先祖に供養や仏教の教えを広める活動を行ったら、ほとんどの人が参加して下さるということが分かる。

住職がいなくならないようにするためには、何が必要かを常に考えることである。今あるお寺や空き寺になりかけているお寺で何かしらのイベントを行ってお寺を守っていくことが大切であると考えた。なぜこれに決めたかという、1、2年生の前で発表した際に、空き寺は一般の人には貸せないのですか?という質問をもらい、それについて調べたところ、「Temple Hotel正傳寺」というものがあり、これはとてもいい活用の仕方だなと思ったのが理由である。「お寺ステイ」を運営する株式会社シェアウィングと日蓮宗松流山正傳寺は、24時間完全無人の宿坊(宿泊施設)「Temple Hotel正傳寺」というものを2019年に東京都に作った。戦後から続く地価高騰により、昔からその地域に住む檀家が減少している都心部のお寺にとって、宿坊「Temple Hotel正傳寺」がお寺の新しい柱の一つとなることを目指しているようだ。オープン背景としては、人口減少による寺院の檀家減少がやはりあり、ここへ宿泊する予定の宿泊者には、「お守りづくり」、「数珠づくり」の体験も予定しているようだ。この「Temple Hotel」は全国に8つある。(※7)このように、空き寺を有効活用することを増やしていきたい。

4. 結論

現在、少子高齢化の進行が非常に進んでおり、後継者となる今の若者達が働きに上京してしまうと、新たな檀家の獲得が困難になってしまうのではないかと考え、そのような状態にならないためにはどうやって僧侶になりたい人を増やしていくかが課題となってくる。お寺で死者・先祖に供養や仏教の教えを広める活動を行ったり、「Temple Hotel正傳寺」といったようなものに宿泊

て、空き寺を有効活用する機会などを増やしていく。そうすると、僧侶になりたい人が少しでも増えるのではないかと考えているので、それらのことを広めていけるようにしていくことがすべきことだと思う。

5. おわりに

筆者は、これからどのように寺院と関わっていくかという探究テーマを設定してから、空き寺に対する気持ちが変わった。最初は空き寺が約20,000もあるということすら知らなかった。そこから調べていくうちにどんどん興味を持ち、これからどのようにしていけばいいのかを考えることが出来た。今、空き寺が約20,000もあるので、それを減らしていき今あるお寺を守りたいと色々な人に伝えていきたいと考えている。

6. 参考文献・出典

※1空き寺の数、後継者問題、イベント活動など 日本仏教協会 寺院を守る

{最終閲覧日2022年9月20日} <https://nihon-bukkyou.com/temple/>

※2全国にあるお寺の数(コンビニの数の情報も掲載されている)

宝林寺

トップページ>知恵>お寺の数っていくつあるの？都道府県別寺院数ランキング！

{最終閲覧日2022年8月15日} <https://media.horinji.or.jp/ranking-prefecture/>

※3全国にあるお寺の数(学校の数の情報も掲載されている)

はぶてんブログ HOME>神社仏閣・パワースポット>全国の神社の数がすごい！

学校よりももっと身近な存在{最終閲覧日2022年8月15日}

<https://donabo.life/jinjanokazu/>

※4先行研究 鶴飼秀徳「寺院消滅」日経BP 2015年

※5人口減少がわかるグラフ

総務省>総務省トップ>政策>白書>28年版>人口減少社会の到来

{最終閲覧日2022年10月4日}

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h28/html/nc111110.html>

※6アンケート調査の結果

日本消費者協会(2008年)第8回「葬儀についてのアンケート調査」

{最終閲覧日2022年5月24日}

※7日本初、24時間完全無人のお寺×IT“テラテク”宿坊「Temple Hotel 正伝寺」をオープン{最終閲覧日2022年10月4日}

<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000013.000026610.html>